

日蓮宗 常栄山 本照寺だより

生涯を変える言葉

箱根関所跡にて

【松原泰道】臨済禅宗の僧侶だが「法華経入門」など多数出版。「100歳からあなたへ」が最後の出版となった。その帯符（おびぎ）には「雨の日の日があつて生涯は豊かになる」といい人生を歩くための言葉」とある。平成21年7月に101歳にて逝去するが、その5カ月前の新聞紙上での対談を、紹介したい。



（産経新聞・平成21年・2月19日）
■ 大学卒業が昭和6（1931）年。大学は出たけれど」という映画が作られたほど、就職難の時代でした。

松原 ■友人6人の中で私以外は誰も就職先が決まっています。そんな中、私が昭和6（1931）年、大学は出たけれど」という映画が作られたほど、就職難の時代でした。松原 ■友人6人の中で私以外は誰も就職先が決まっています。そんな中、私が昭和6（1931）年、大学は出たけれど」という映画が作られたほど、就職難の時代でした。

【話の肖像画】

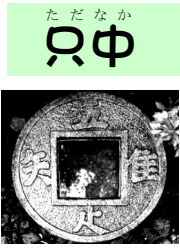
「人生、これ修行」 ③

南無の会・会長
松原泰道さん

人の役に立つ生き方を

■私たちが「空気」を意識せずに毎日を送りますが、水中を泳ぐ魚たちもその「水」の存在に気付かないことでしょう。また富士山に登っていると「富士山」も見えませんが、どうもその「中」（ただなか）にいます、見えなくなってしまうことが魚たちにも、私たちにもあるようです。

■幸せの青い鳥を探ることができなかつたチルチルとミチルも、結局、家で飼っているハトが青かったことに気付く、幸せは探し求めるものでなく、身近な所にこそある」とのメッセージを示し、更に「幸せ」に「気付けぬ心」を戒（いまし）めます。病も「健康」の只中に在る私たちに、健康のありがたさという気付きを与えてくれます。病は仏のお計らいか。病によりて道心は起り候。日蓮大聖人。



■今、日本はとても豊かです。しかしその只中にあるが故に「豊かさ」に気付かず、少しでも足りない不平や不満をもちます。今改めて、今この時の幸せを、深く感じ入ることができ私たちがでありたいものです。 ②記事参照

第40号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所 本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438

「再びお互いが会えるかどうか分からない。せつかく一緒に学生生活（早稲田）を送ったのだから記念の旅をしよう」と言った友人がいました。

でも、親に旅費を都合してもらおうわけにもいかず、自分の小遣いも少ない。すると友人は、「無銭旅行をするんだ。おれたちは大学という一つの関所を越えたか、目的地は箱根の関所跡だ」と言うのです（苦笑）。

松原 ■「あれをみよみやまのさくら さきにけりまごころつくせ ひとしらずとも」（あれを見よ 深山の桜咲きにけり 真心尽くせ 人知らずとも）。

あれを見よ 深山の桜咲きにけり

真心尽くせ 人知らずとも

★徒歩で野宿しながらですか？

松原 ■ええ、とにかく往路は歩いて出かけました。当時は人々も温かかったから、夜は寺や農家に何人かに分かれて泊めてもらい、その代わりにまき割りなどをしました。

★貧しいながらも人々の心

ある無名兵士の詩 ニューヨーク大学

■以前にも「本照寺だより」22号で紹介した次の詩は、ニューヨーク大学の壁に掲げられていて、47年前にアメリカの南北戦争に従軍した南軍の兵士が記したものとわけています。私が書いた「困み記事」「只中」と併せて読んでくださると、両者がより理解できるのでは、と思います。

★「大きなことを成し遂げるために 強さを与えてほしいと神に求めたのに 謙遜を学ぶように弱さを授かった」

は豊かだったのですね

松原 ■そうですね。そして箱根の関所跡に着いたが、そんな時代、観光客なんていない。今も目の前に浮かびますが、桜の花が満開で風もないのに花びらがはらはらと学生服の上に散ってくる。私たちはすっかりセンチメンタルな気分になっていました。

「ぼちぼち帰ろうか」と立ち上がったとき、万葉仮名が書いてある古い石碑が見つかったのです。

★そこにはなんと？

松原 ■「あれをみよみやまのさくら さきにけりまごころつくせ ひとしらずとも」（あれを見よ 深山の桜咲きにけり 真心尽くせ 人知らずとも）。

私たちが「逆境で就職も何もないけれど、この歌のように人をだましたり、要領のいい世の中の渡り方をしたりするのはやめよう。真心こめて誠実に生きていこうじゃないか」と誓い合ったのです。

（裏面困み記事に「人知らずとも」の一例を記載しました）

4

♪気になる木

■ダイオウシヨウは「大王松」と書き、マツ属の中で最も長い葉を持つのでこの名前がつきました。北アメリカが原産地で、樹高は40mを越えるといいますが、日本ではその半分程度にしかありません。40mというと分かりにくいですが、ビルにすると11階の高さとなります。輸入されたのは「明治末期」とありますので、樹齢は100年を少し越える程度。



■杉もそうですが、これほどまっすぐに伸びる木は珍しいのでは？ 台風などの大風が吹くとそれはもう、ギイギイと「折れる？」と思うほどに揺れます。そんなこともあって、数年ごとに剪定をしています。

墓地に東屋が完成

■古く広い墓地を引っ越された方がいらつしやいましたので、以前から希望していました「東屋・あずまや」を建立し、併せてお水屋（ベンチ付）も新築いたしました。

休憩所として、夏の日陰として、また冬のひなたぼっことしてお墓参りの「ひと時のホッ」にお使いいただければ幸いです。



④東屋 ⑤お水屋・双方とも頼住建築さんの作です



本照寺 檀家様
『ご埋葬』は
イシックスに
お任せ下さい
埋葬料 10,000円(税込)
清掃・拝石メジ・香炉皿交換 含みほろ(古い場合)
☎0120-011140
□平塚店
〒254-0014 平塚市四之宮2-24-31
TEL 0463-53-1114 FAX 0463-54-0222
□小田原店
〒250-0011 小田原市栄2-5-22 木戸ビル1F
TEL 0465-20-1114 FAX 0465-20-1135

私達のお寺は

宗派・日蓮宗
ご本尊・大曼陀羅
【だいまんだら】
ご本仏・久遠実成
本師釈迦牟尼仏
【くおんじつじょうほんししやくかにぶつ】
総本山・身延山
久遠寺
【みのぶさんくおんじ】
宗祖・日蓮大聖人
経典・法華経
主に唱えるもの・開経偈～方便品～自我偈～お題目～宝塔偈

故人の生涯を回顧し 労苦をたたえ 恩恵に感謝し その人生を意味づけたい

葬儀と火事の2件、これは「村八分」でも付き合ってくれるほどの一大事。では、そんな一大事たる通夜葬儀を通して私達は、どのような心境の変化を得、また癒しへと向かうのでしょうか...

残された人々に対する心の安らぎ

一、死の事実を一步一步受け入れて行く(諦観・心象として)
一、心理学用語で呼ぶ「カタルシス」精神の浄化作用
一、近親を亡くした方々への調査によると、「悲しみの

世界の教訓

ドイツのある王様が、だれも見ていない夜中に市街地の真ん中へ、そとと大きな石を置いて帰城した。
★翌朝、酔っぱらいの軍人がその石につまずいて、倒れて頭を打った。
「だれだ、こんな往来に石を置いたやつは、ばかやろう、気をつけろ」。さんざん悪口を言っ

「本照寺」のホームページは厚木本照寺や日蓮宗本照寺で検索してください。この「本照寺だより」が届かない家はお檀家登録がされていません。墓地があっても「本照寺だより」が届かない方はお知らせください。



「本照寺」のホームページは厚木本照寺や日蓮宗本照寺で検索してください。

「遺族は通夜・葬儀の場にのぞみ、現実を受け入れ、弔問・参列の人々と悲しみを分かち、更には支えを得ることができず、故人の生涯を共に恵に感謝し、その人生を意味

月光仮面は寺の息子3人が...

モデルは母親

いって通りかかった。「なんだい、こんな所に大きな石を置いて。邪魔で通れないじゃないか」。不平たらたら、石をよけ石を蹴って通り過ぎた。
★かくして、だれひとりこの石を取り除く者の真ん中に集めて本当の話をした。
「実はこの石は私が置いたのである。しかし今日までだれ一人として他の人のために取り除くか、端へ移動する者はいなかった。これは私の政治の欠陥だろう。今日この石を、私が取り除こう」。王様は自ら石を動かした。
(原文は残念ながら「石の下に宝」と金貨20枚があった」となり



川内康範、かわうちこうはん
大正9年、北海道函館の日蓮宗寺院の

【月光仮面】原作者は川内康範、プロデューサーは西村俊一、主題歌は長田暁二。この3人は意外にも寺の息子でした。
今回は晩年、森進一の「おふくろさん」改作問題で有名となった、川内康範氏を紹介しましょう。

編集後記
波が襲った。東北地方を中心に巨大な地震、津波が襲った。失ったもの、それは実に計り知れない。せめて停電にて万分の一でも、辛苦を分かちたい。また、被災地の方々の生

子として生まれ、平成18年、88歳で逝去。多くの映画の原作脚本を手がけ、特に昭和33年の『月光仮面』は有名。
その後、作詞活動も始め「誰よりも君を愛す」「君こそわが命」「骨まで愛して」「恍惚のブルース」「花と蝶」「伊勢佐木町ブルース」「おふくろさん」など数多くのヒット曲を送り出しました。
また多くの人に影響を与えた長寿番組、『まんが日本昔ばなし』の監修を手がけ、著書も70冊を越えます。
その川内氏がまだ小さい頃のこと、寺での法事が終われば供物のお下がりを頂戴できると楽しみにしていると、母親は「あなたたちよりも貧しく、困っている人たちがいるから」といって寺を出て、貧困生活者らに配っていました。
のちに川内氏は『月光仮面』という冒険活劇を作りましたが、モデルの素地は、母親の姿を見ることで培われてきたものと言われています。
法事後の供物を配る母親は、どこの家の者か知られれば面倒なことにもなりかねません。したがって、恐らくは「疾風のように現れて、疾風のように去っていく」形で供物を配ったことでしょう。更にいつも弱者や貧者の立場に立ち、日頃から「お前もいつかは、世の中の傘になれ」と口癖のように教えてきた言葉が、そのまま『おふくろさん』の歌詞になりました。したがってこの歌は、母親の「遺言」のような歌といえましよう。
また川内氏は「法華経の教えは自身の思想の原点である」と語っていました。
私財を投じての遺骨引揚、日本人抑留者帰国運動の活動を通じ政財界との関わりを持ち、福田赳夫の秘書を務め、鈴木善幸、竹下登の指南役でもあった。竹下登と誕生日が同じで、長年竹下邸で合同誕生会が開かれ、晩年は国民新党顧問に就任。青江三奈の育て親であり名付け親でもある。
川内氏と森の付き合いは古く、昭和43年に「花と蝶」で川内氏が作詞を担当したときからの付き合い。元来、川内氏は親分肌の人間で、森のそれまでの境遇に同情。ひたむきだった人柄を気に入り家族ぐるみの付き合いを始めた。昭和48年に森の母が自殺した際には、真っ先に駆けつけ葬儀を取り仕切ったほか、自ら枕元で読経供養をした。